

「京都市立芸術大学移転整備基本構想」の策定について

京都市立芸術大学は、明治13年に開校した我が国最古の芸術大学であり、今日まで、京都ならではの人的な交流を生かして自由で独創的な研究を行うとともに、次世代の芸術文化を先導する創造的な人物を生み出し、国内外の芸術文化の発展に寄与してきました。

本市では、平成25年3月に京都芸大から「崇仁地域への移転・整備に関する要望書」が提出されたことを受け、京都芸大が我が国随一の芸術の学びと創造の拠点として歴史と伝統を更に重ねるとともに、世界に冠たる芸術大学として一層飛躍するため、京都の玄関口・京都駅の東に位置する崇仁地域へ移転整備することとし、この度、移転整備の基本的な方向性を明らかにする「京都市立芸術大学移転整備基本構想」を策定しました。

今後、この基本構想を基に、具体的な整備規模、必要な機能、事業手法等を盛り込んだ移転整備基本計画の策定に向け、検討を行っていきます。

記

1 移転整備の基本理念

京都の玄関口・京都駅の東部エリアに、文化芸術を創造し、国際的に様々な人が集い、交流し、まちが賑わい、世界に発信する、「文化芸術都市・京都」の新たなシンボルゾーンを創生します。

2 基本理念を実現するための施設整備方針

以下の5つの施設整備方針のもと移転整備を進めます。

(1) 文化芸術による世界の人々の交流・育成や地域のまちづくりと連動する

市民をはじめ国内外からの観光客、世界で活躍する芸術家が集い、文化芸術に触れ、自由に交流できるキャンパスを目指します。

(2) 世界に冠たる芸術大学として一層の飛躍を目指すため、教育環境を充実する

研究機関(芸術資源研究センター等)と教育研究施設(芸術資料館やギャラリー等)を一体的に配置するなど教育環境を充実します。

(3) 自由で独創的な研究活動を活発化し、国際的な文化芸術の基軸となるため、研究環境を充実する

国際的に優れた研究成果を生み出し続けるため、研究スペースや収蔵施設等の研究環境を充実するとともに、学外連携を推進する施設やスペースを設けます。

(4) 教育・研究成果の社会への発信を充実する

音楽ホールやギャラリーなど，教育研究の成果をより一層市民・社会へ広く発信するための施設・機能を充実するとともに，地域・社会に開かれたキャンパスとします。

(5) 誰もが利用しやすく，安心・安全で景観・環境へ配慮する

高い耐震性を備え，災害用資材の備蓄スペース等の防災機能も整備するなど，災害時に避難所としての役割を果たすとともに，景観や近隣地域の生活環境にも配慮したキャンパスとします。

3 事業スケジュール

平成27年度	移転整備基本計画の策定
平成28年度～	設計
平成32年度	教育研究成果を発信する施設の一部を先行移転
平成35年度	全面移転

4 資料

- 京都市立芸術大学移転整備基本構想 (別紙1)
- 京都市立芸術大学移転整備基本構想<概要版> (別紙2)

※ 以下のホームページからダウンロードできます。

<アドレス><http://www.city.kyoto.lg.jp/gyozai/soshiki/3-1-1-0-0.html>

【参考】

京都市立芸術大学移転整備基本構想(案)に対する市民意見募集の結果について

1 市民意見の募集期間

平成27年2月17日(火)～3月18日(水)

2 応募結果

応募総数 216名(意見数273件)

3 主な御意見

意見区分	件数	意見区分	件数
① 全般について	56	⑦ 事業スケジュール	9
② 移転予定地の現状	11	⑧ 事業手法	1
③ 基本理念・施設整備方針	78	⑨ 移転整備プレ事業	1
④ 移転予定地の利用計画	55	⑩ 西京区・洛西地域の取組	9
⑤ 必要と考える規模	8	⑪ その他	24
⑥ 移転予定地の既存施設	21	合計	273

4 主な御意見(要旨)と御意見に対する本市の考え方

別紙3のとおり